

「足関節機能障害を呈する症例におけるヒラメ筋の硬さと しゃがみ動作時の足関節背屈角度との関係」

当院では以下の臨床研究を行なっております。

【研究課題】

足関節機能障害を呈する症例におけるヒラメ筋の硬さと
しゃがみ動作時の足関節背屈角度との関係

【研究の背景と目的】

足関節骨折後やアキレス腱断裂後は足関節の運動範囲が狭くなり、しゃがみこみが困難になることがあります。足関節の運動範囲を狭くする原因には、ヒラメ筋が関わっています。

ヒラメ筋が硬くなると、しゃがみこみを制限する可能性があります。客観的な数値では明らかになっていません。

本研究の目的は、ヒラメ筋の硬さとしゃがみこみ時の足関節の角度との関係を明らかにし、リハビリテーションに役立てることです。

【研究の期間】

2022年7月1日～2024年7月1日

【研究対象】

- ・足関節骨折後やアキレス腱断裂後などで足関節機能障害を呈し、
当院の外来リハビリテーションに通われている方
- ・全荷重が許可された術後3ヶ月と5ヶ月の方

【研究の方法】

当院のリハビリテーションでは、術後3ヶ月、5ヶ月に関節機能測定を行っています。本研究では、その測定結果を部分的に2次利用し、研究を行ないます。

【利用する情報】

- ・基本情報（年齢、性別、身長、体重、BMI、利き脚）
- ・医学的情報（診断名、既往歴、手術記録、治療経過）
- ・ヒラメ筋の硬さ
- ・足関節可動域
- ・足関節筋力

・しゃがみこみ時の痛み

【予想される利益・不利益】

利益：ヒラメ筋が硬いほど、しゃがみこみ時の足関節の運動範囲が小さくなることが明らかになる。これが明らかになれば、ヒラメ筋の硬さを改善することで、しゃがみこみが改善する可能性がある。

不利益：筋力測定にともなう筋肉痛が生じる可能性がある。

調査に参加いただく事により 40-60 分程度の時間的拘束がある。

【個人情報の取り扱いについて】

本研究の成果を、学術目的のため学会や論文で公表する際には、個人情報を厳重に守り、個人が特定されない形で使用します。

【研究協力の自由について】

研究への協力は自由意志であり、拒否された場合でも不利益はありません。協力を希望されない場合は、お手数をおかけしますが、ご連絡をお願い致します。

【利益相反について】

本研究に開示すべき利益相反はありません。

【研究責任者連絡先】

総合病院土浦協同病院

リハビリテーション部 宮阪隼人

電話 029-830-3711 (代表)